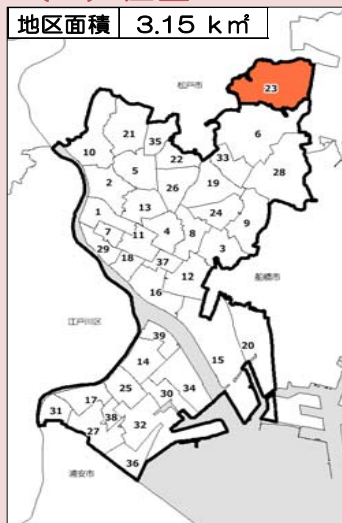


23 大町小学校区

(1) 位置



(2) 地区概況

◆位置

大町小学校区は市の北部位置し、地区の北側に松戸市、東側に鎌ヶ谷市が隣接しています。

◆地形・土地利用

地形は、平坦な台地で構成されています。
地区内は、主に市街化調整区域となっており、大半が農地となっています。また、地区内の一部地域は風致地区に指定されており、風情ある落ち着いた環境となっています。

◆都市基盤

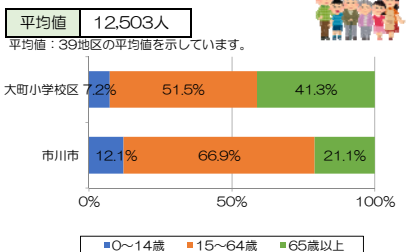
地区内の松飛台駅周辺は、土地区画整理事業により整備されています。地区の北側を東西にかけて国道464号が通っています。総合公園である大町公園があります。
また、地区の北側には北総線が通っており、北西に松飛台駅、北東に大町駅があります。地区内には、北総線大町駅、JR本八幡駅行きの京成バスが通っています。

(3) 人口・建物概況

◆人口

年齢別割合	大町小学校区	市川市	割合※
人口総数	3,657人	487,621人	0.7%

※割合：市全体の総数に対する地区総数の割合

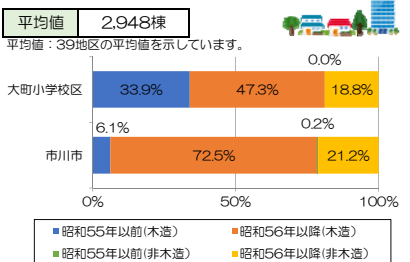


地区の人口は、全地区の平均人口より少ないです。また、市全体と比較すると65歳以上の割合が高く、比較的高齢の世代が多い地区となっています。

◆建物

構造別割合	大町小学校区	市川市	割合※
建物総数	1,653 棟	114,958 棟	1.4%

※割合：市全体の総数に対する地区総数の割合



地区の建物は、全地区の平均棟数より少ないです。市全体と比較すると昭和56年以降の新耐震基準の建物割合が低いです。また、木造建物がやや多い地区となっています。

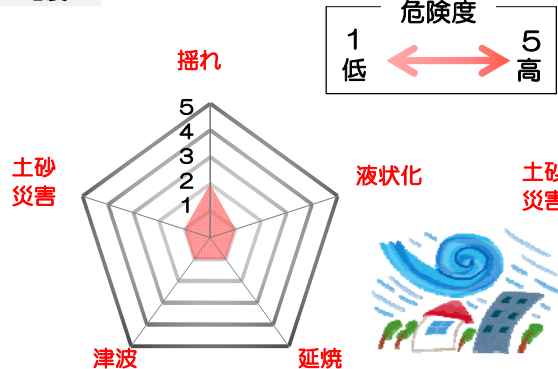
(4) 災害リスク評価

市川市防災カルテ < 大町小学校区 >

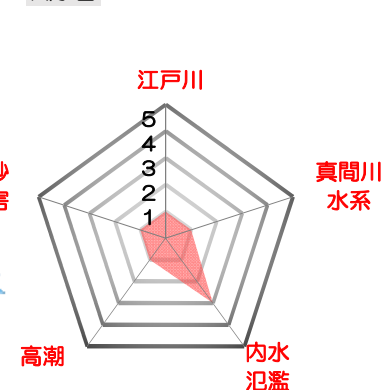
災害に対する弱み（マイナス）については、5に近づくほど危険度が高くなり、災害に対する強み（プラス面）については、5に近づくほど安全度や充足度が高くなります。災害リスクは、後述の地震被害想定や浸水想定の結果、各地区の現況データを用いて相対的に評価しています。なお、危険性がない場合でも1となります。

◆災害に対する弱み（マイナス面）

地震

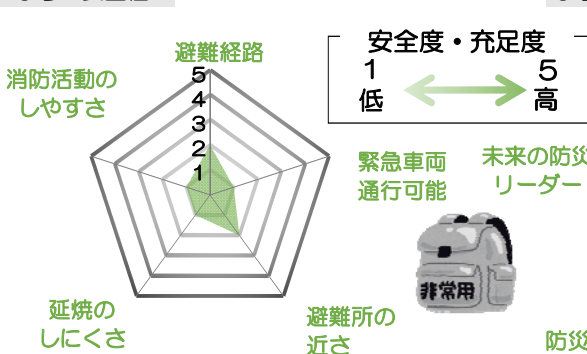


風水害

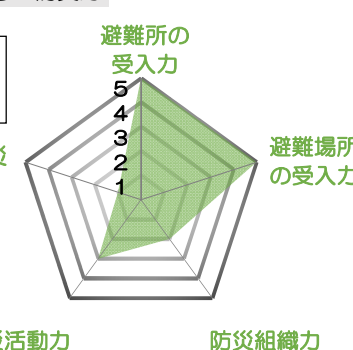


◆災害に対する強み（プラス面）

まちの安全性



まちの防災力



◆評価

大町小学校区は、地震災害については、最大震度6弱の揺れが予測され、揺れによる危険性があります。また、風水害については、平坦な土地であることから、一部地域で内水氾濫による危険性があります。
一方で、まちの安全性は各評価項目について総じて低い傾向にあります。また、地域の防災力については、避難所・避難場所の受入力は高い傾向にあるものの、防災組織力は比較的低い傾向にあります。

(5) 防災関連施設

◆避難所及び福祉避難所

施設名	福祉避難所	施設名	福祉避難所
大町小学校	-		
少年自然の家	-		
やわらぎの郷	○		
太陽と緑の家	○		

◆避難場所

名称
大町小学校
少年自然の家
奥野木学園大町不二グラウンド
市川自然博物館

◆地区内の主な施設

種別	施設名	施設名	種別	施設名
要配慮者利用施設（公設）	なし		医療救護所	なし
			関連施設	なし
			-	
			-	
			-	

要配慮者利用施設（民設）

○



※要配慮者利用施設は浸水想定区域内に立地する施設を示しています。

(6) 被害想定結果（地震・風水害）

◆地震災害（被害を受ける割合）

	想定項目	大町小学校区	市川市全体
建物被害	全壊棟数の割合（揺れ・液状化・急傾斜地崩壊）	1.5%	3.6%
	半壊棟数の割合（揺れ・液状化・急傾斜地崩壊）	10.6%	16.0%
	焼失棟数の割合	0.3%	4.6%
	浸水棟数（津波）の割合	0.0%	0.8%
人的被害	死者の割合	0.0%	0.1%
	負傷者の割合	0.7%	0.9%
	避難者の割合	4.4%	7.3%



◆風水害（被害を受ける割合）

	想定項目	大町小学校区	市川市全体
建物被害	浸水棟数（江戸川）の割合	0.0%	52.0%
	浸水棟数（真間川）の割合	1.0%	13.6%
	浸水棟数（内水）の割合	0.4%	20.5%
	浸水棟数（高潮）の割合	0.0%	1.5%



市全体の結果と比較すると、地震災害については、木造建物や新耐震基準前の建物棟数は多いですが、地形が台地であることもあり、建物被害はやや少ない傾向となっています。また、人的被害については、死者及び負傷者、避難者については、市全体よりやや少なくなっています。

一方で、風水害については、一部内水氾濫による影響はあるものの、地形が台地であることもあり、市全体と比較して浸水棟数は少なくなっています。

(7) 防災上の課題

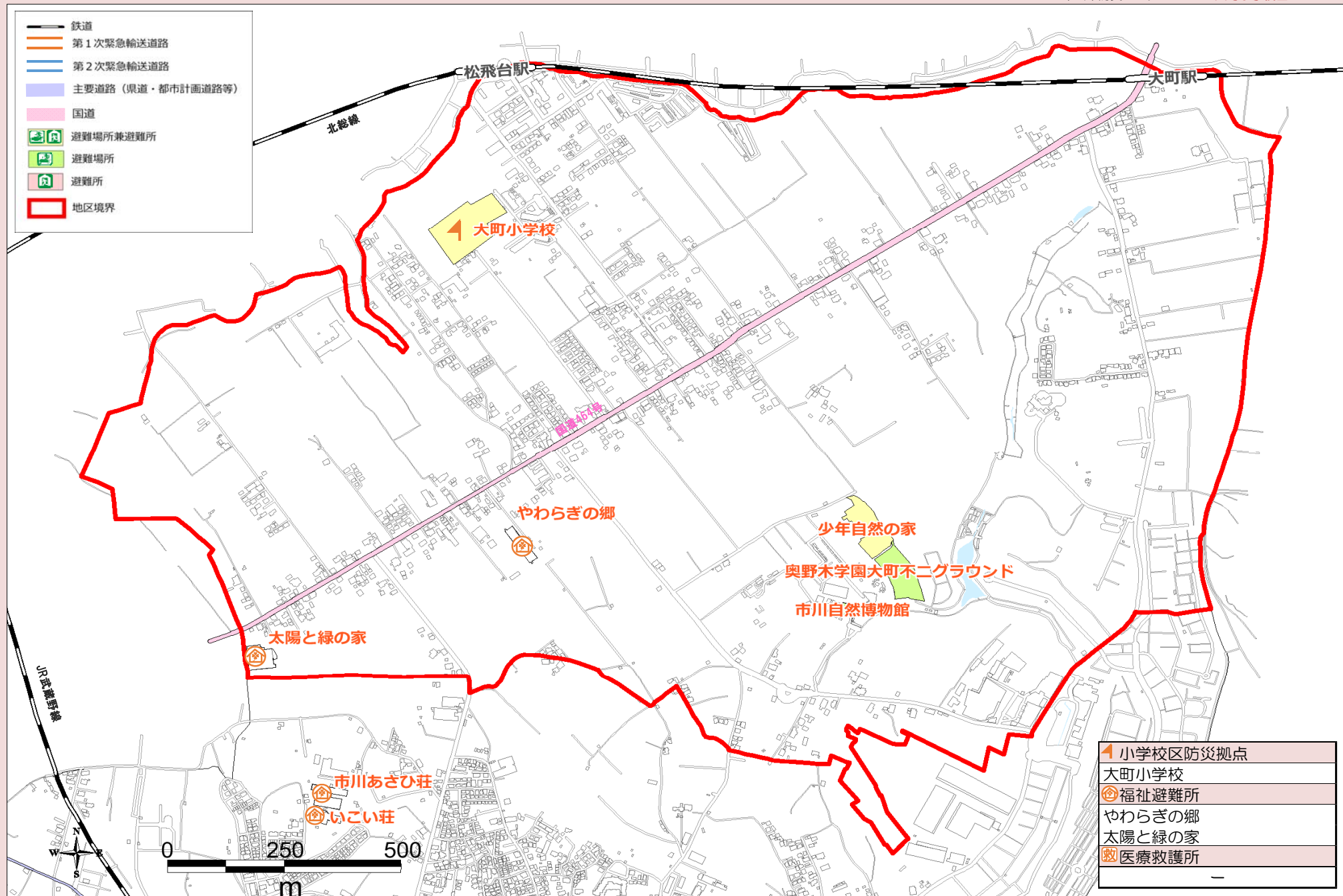
項目	課題
地震	地区全域において震度6弱の揺れが予測され、全体的にやや危険性は低いですが、揺れによる危険性も十分想定されることから、耐震対策を行うことが重要です。
風水害	地区内には、浸水する面積及び浸水する棟数割合はわずかですが、一部で内水による浸水被害の恐れがあり、浸水対策が重要です。
まちの安全性	地区内には、狭い道路が多いことから、避難ルート等の確保や延焼遮断となる空地が少ないことから初期消火の対策が重要です。
地域の防災力	地区内では、防災活動力や防災組織力が低いことから、円滑な初期対応を行えるように、自宅での消火器などの備蓄が重要です。

(8) 防災対策の方向性

項目	取組の方向性
地域の取組	地区内には、狭い道路が多く、避難ルートや緊急車両が通る道の確保が大切であることから、市の助成制度である「危険コンクリートブロック塀等除却」や「生垣助成」の助成を利用したブロック塀等の倒壊による災害防止と、日頃から安全なルートを確認しておくことが効果的です。 また、災害時に負傷者や火災が発生した場合、即座に応急手当や初期消火ができるように、高い防災組織力を活かし、地域で初期対応の訓練を実施するなどの対策が効果的です。 江戸川氾濫及び内水氾濫が想定されることから、洪水時の避難場所等も確認し、あらかじめ避難する場所について地区の中で情報共有を行うことが重要です。
個人の取組	地震災害に対する備えとしては、地区内には古い木造建物が多いことから、地震に対する備えとして、市の助成制度である「耐震改修助成制度」を利用した耐震改修工事による自宅の耐震化対策や、「あんしん住宅助成」を利用した感震ブレーカーの設置、家庭内の水や食糧の備蓄をするなど、自宅（家庭）の防災性を向上させることが重要です。また、消防活動のしやすさが低いことから、住宅用消火器を設置する等、初期消火等の対策を行うことが必要です。 一方で、風水害に対する備えとしては、内水の氾濫による浸水も考えられることから、大雨時等の避難場所や避難所について確認しておくことが必要です。また、自宅等への浸水を防ぐため、市の助成制度である「あんしん住宅助成」を利用した防水板の設置、土のうステーション等を利用した土のうの設置による浸水対策の対策を行うことも重要です。 避難経路の確保ができない可能性が考えられることから、まちあるき等を通して避難経路についてあらかじめ決めておくことが必要です。

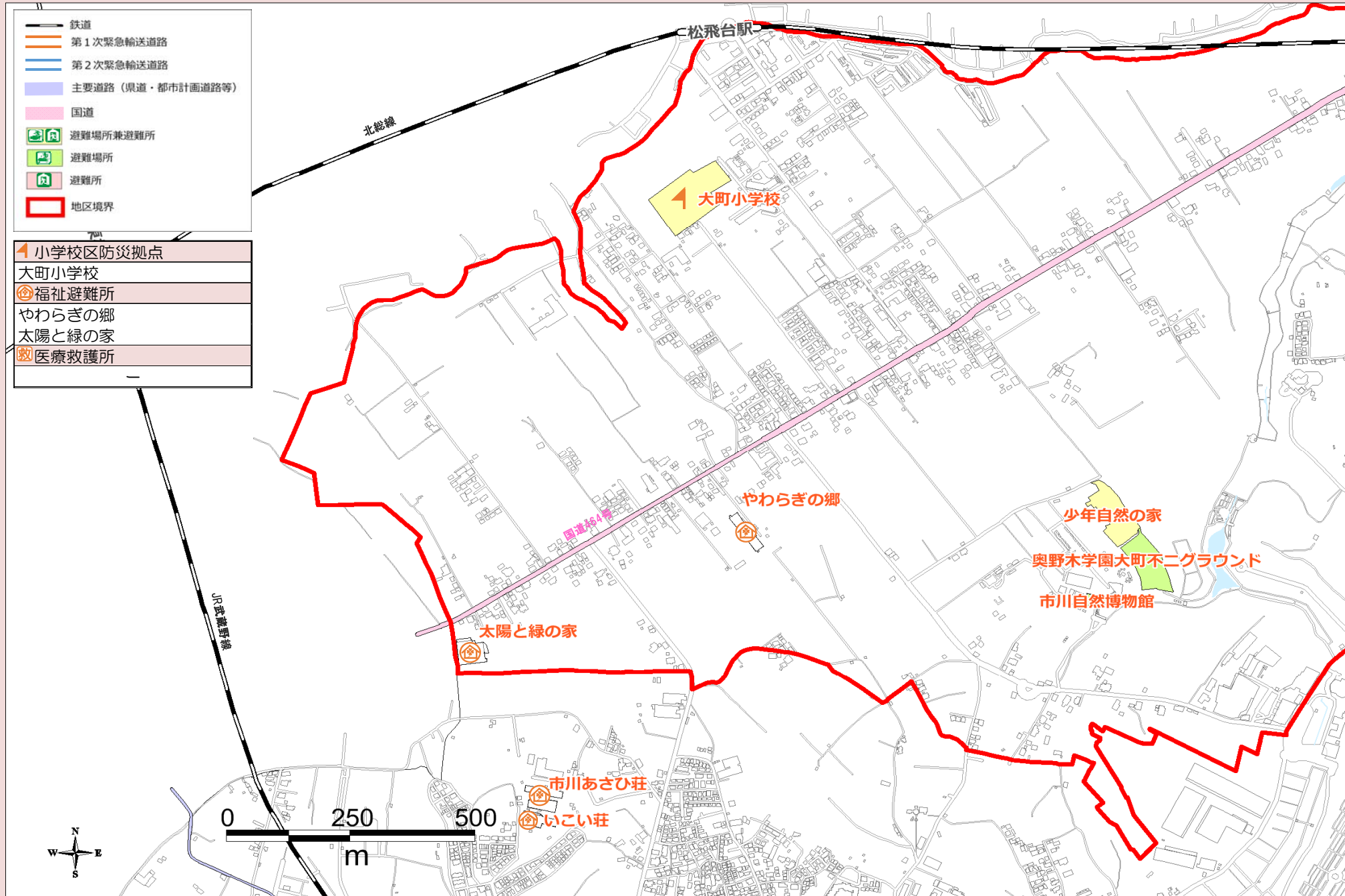
(9) 防災マップ

市川市防災カルテ < 大町小学校区 >



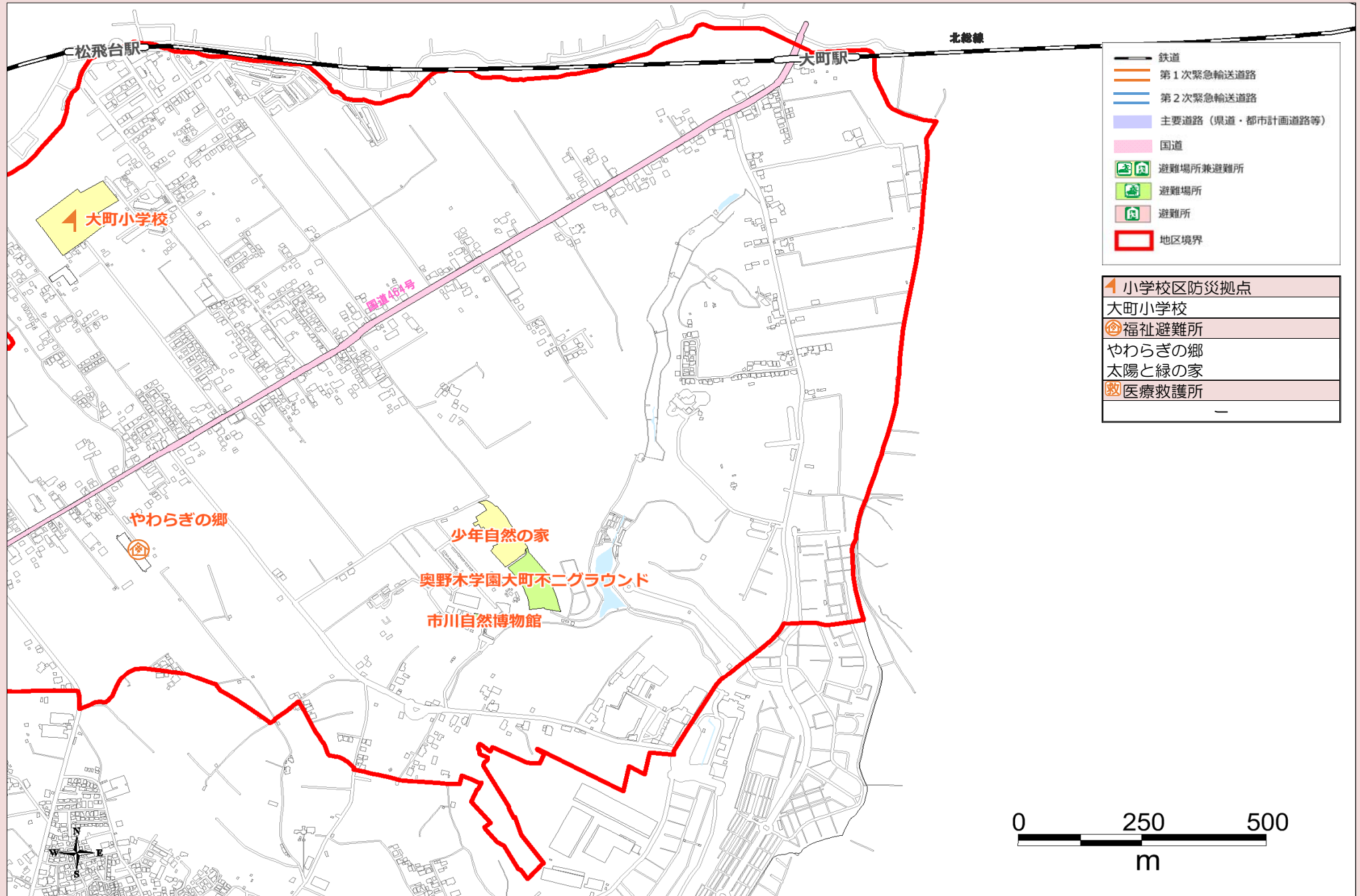
(9) 防災マップ①

市川市防災カルテ < 大町小学校区 >



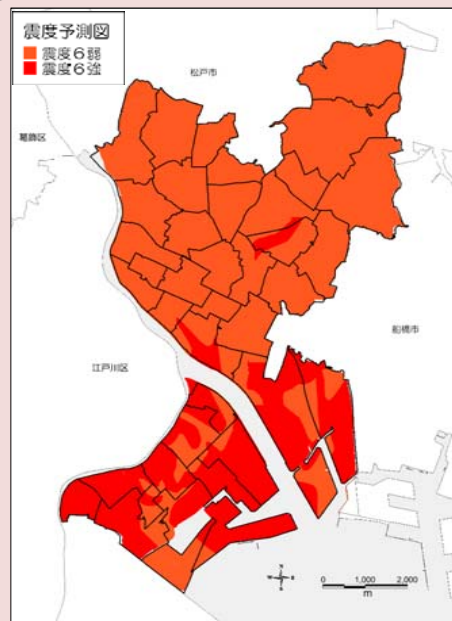
(9) 防災マップ②

市川市防災カルテ < 大町小学校区 >



(10) 基礎資料

①市全域の震度分布図



本カルテには、東京湾北部を震源域とする地震が発生した場合の結果です。
震度分布図を見ると、市の北部は震度6弱、南部は震度6強と予測されています。

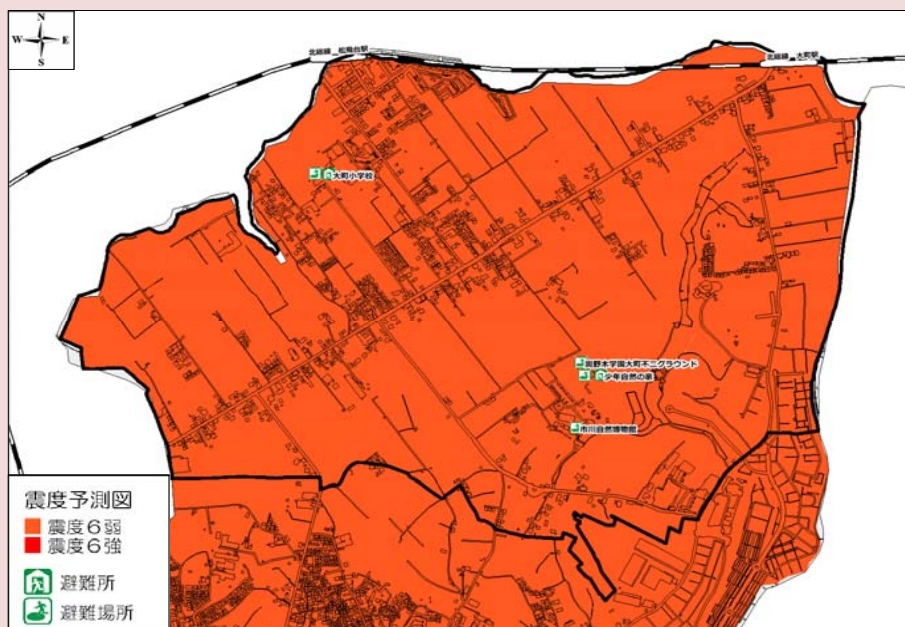
想定地震	東京湾北部地震
マグニチュード	7.3 (震源深さ：20km程度)

▼震源

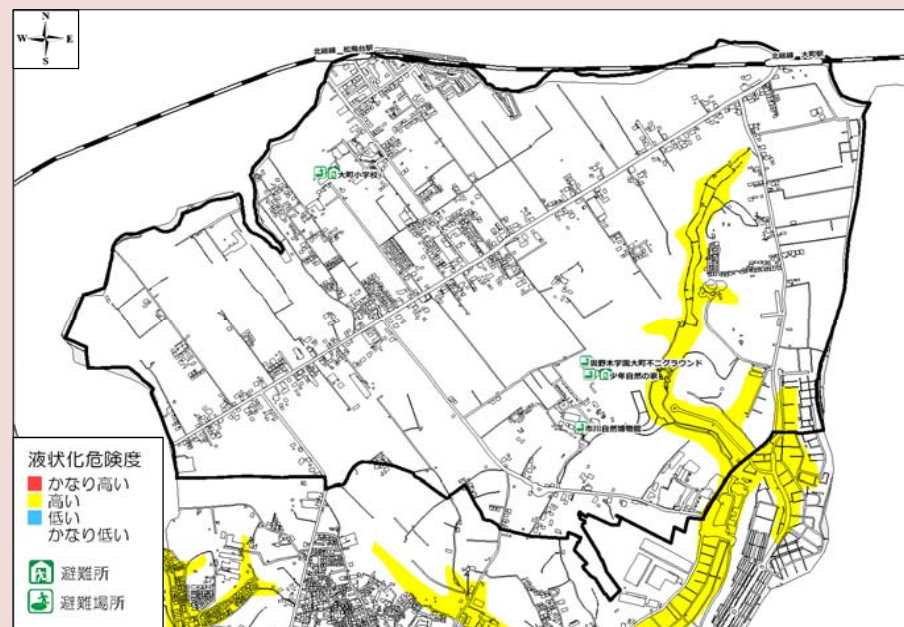


※本結果は市川市地震被害想定結果（平成24年度）に基づいています。

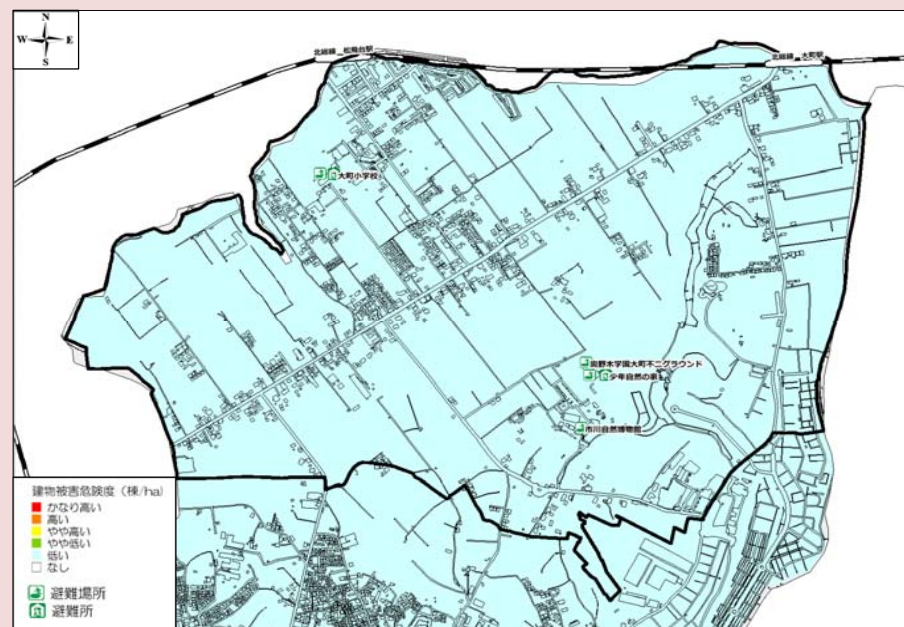
②震度分布図



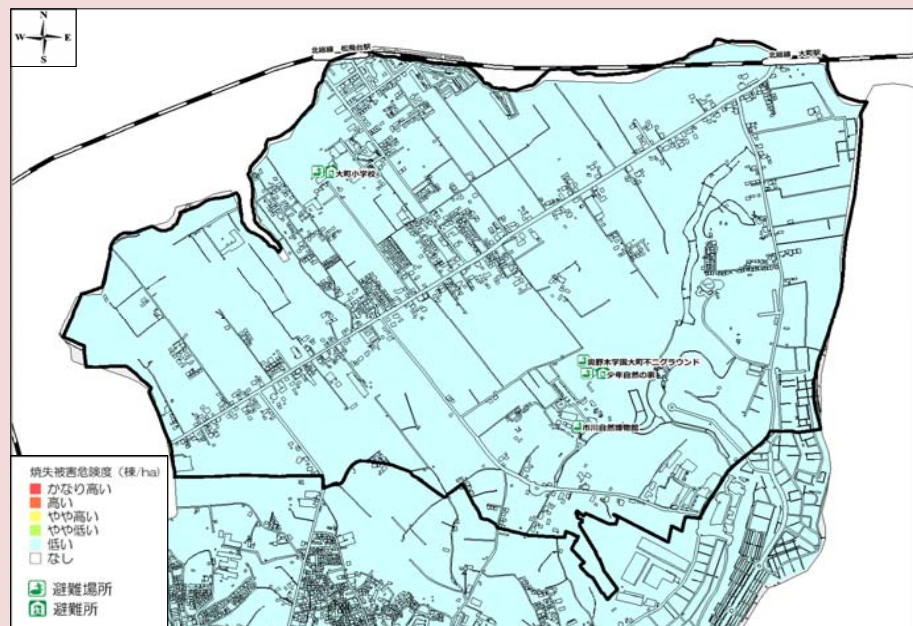
③液状化危険度



④建物被害（揺れ・液状化による被害）



⑤建物被害（延焼による被害）



⑦浸水想定概要

江戸川の氾濫及び真間川
の氾濫、内水の氾濫、高潮
による浸水想定区域を示し
ています。

災害時にすばやく避難で
きるようあらかじめ近隣
の避難所及び避難場所につ
いて確認しましょう。

また、避難経路上の浸水
状況も確認しておきましょ
う。

水の深さ

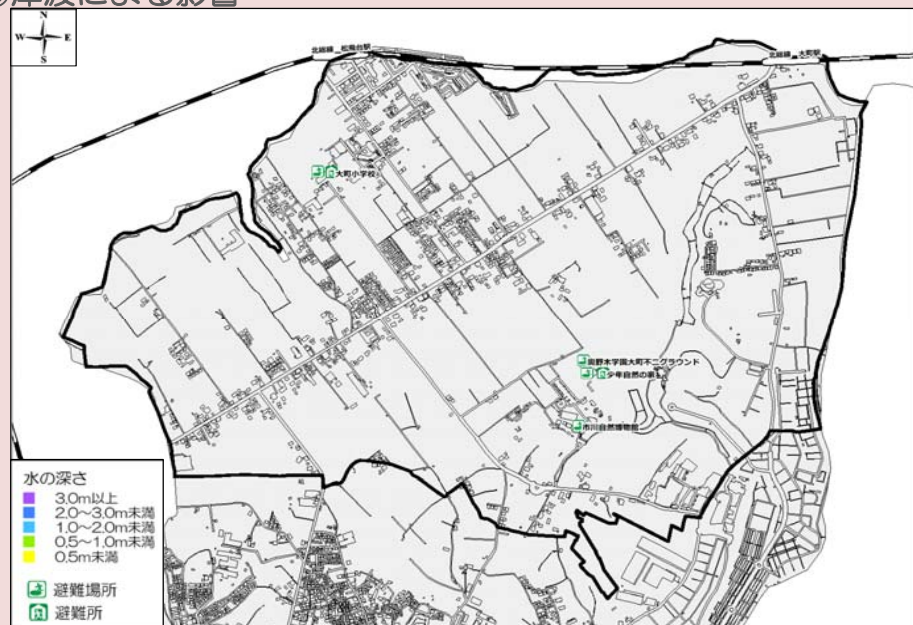
- 水の深さが3.0m以上
- 水の深さが2.0～3.0m未満
- 水の深さが1.0～2.0m未満
- 水の深さが0.5～1.0m未満
- 水の深さが0.5m未満

浸水の目安



※浸水の凡例区分及び配色については市川市で
任意に設定しています。

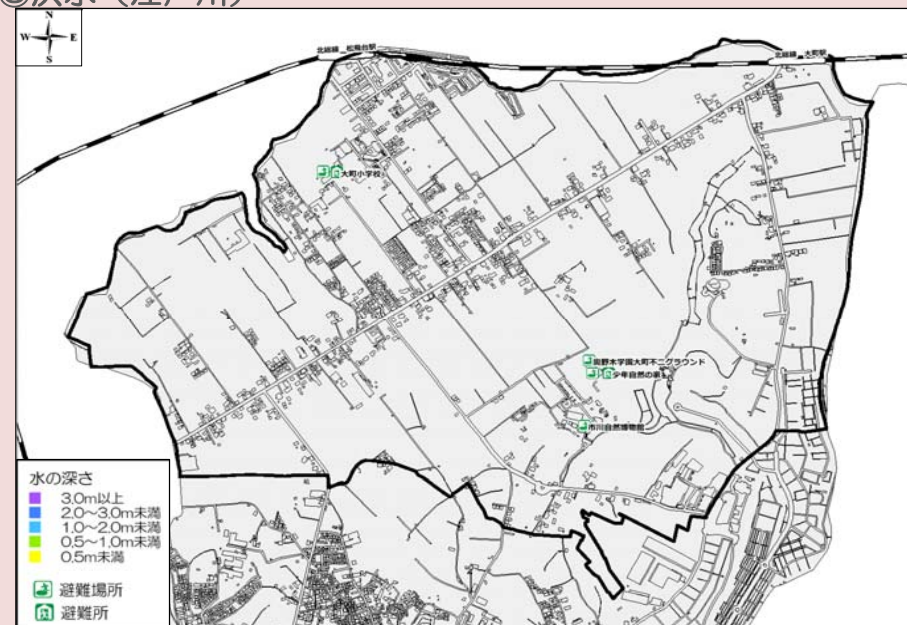
⑥津波による影響



※津波の河川遡上による市街地への影響はありません。

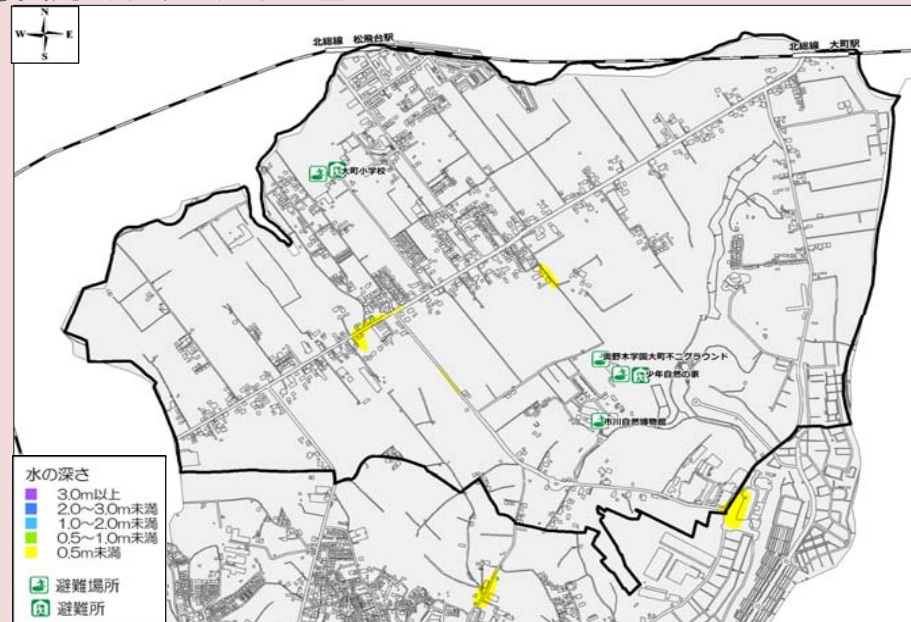
平成24年4月：千葉県

⑧洪水（江戸川）



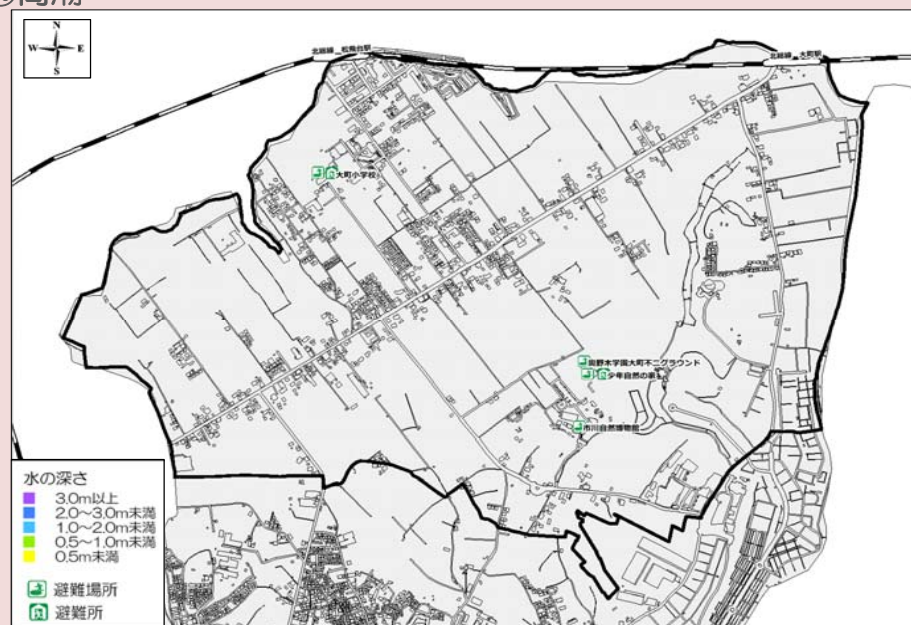
平成29年7月：国土交通省

⑨真間川水系・内水氾濫



平成18年3月：千葉県、市川市

⑩高潮



平成21年4月：国土交通省

◆メモ

